

10. 自然現象

10-1. 時間（季節・1日の区分）

10-1-1. 季節

各家で正月にアシリパノミ asir pa nomi（新年の祈り）を行う。祭壇の神々、ワクカウシカムイ wakka us kamuy（水の神）やシランバカムイ siranpa kamuy（木の神）にも祈る。家の神に酒をささげてキケを取り替える。正月のカムイノミは、一家の安全を祈るためにする。

[門別 鍋沢強巳氏]

2月か3月に、1年に1回まわり番で酒づくりをする。皆でヒエ・アワを持ち寄りどぶろくを作り自分の部落以外の平取までも他のコタンの首長（コタンコロクル kotan kor kur）格だけ招待する。たとえば、ユクツエ、ピタルパ、シウンコツの人を招待した。鶴川の人は呼ばなかった。沙流川筋がウタリ関係にある。このカムイノミは自分が15～16歳になるまで続いた。

[門別 鍋沢強巳氏]

10-2. 気象・天候・災害

10-2-10. 洪水・津波・山津波

新平賀より2 km平取よりの沢は、シウンコツ（スウンコツ suunkot からシウンコツ siunkot へと変わった）と言った。大津波の後で鍋を見つけた沢という意味で鍋沢の姓は、この沢の名に由来する。

[門別 鍋沢強巳氏]

水平線が真っ赤に見えるのが、大津波（オレブンペ orepunpe）の前兆だという話だ。大津波の時には、できるだけ高いところに逃げなければならない。（門別編11-2-2参照）

[門別 鍋沢強巳氏]

10-4. 地理・地形

10-4-1 コタンの構造とその近隣の状況

平賀コタンは、piraka という。pira は、「崖」の意味で、piraka は、「崖の上」という意味だ。初めに崖の上にコタンがあったからついた名だ。大正12年から昭和20年頃のコタン概況を示す自作の地図がある。

[門別 鍋沢強巳氏]

明治31年に大水害があつて山の上にあつた昔の平賀村から出作（でさく）して水田を作つていた崖の下の堤防地に明治32年に移つた。それが新平賀だ。平賀村の村名から人名になつた。平賀姓、鍋沢姓、鳩沢姓が新平賀コタンにいた。

鳩沢姓の人達は、門別本町から10kmくらい上のハトナイ hatonay (hat-o-nay ブドウのある沢) に住んでいたのので、その沢の名前から、鳩沢姓を名乗るようになった。奥井商店のアチャポ acapo は、ポロアイヌ poroaynu という名だつた。自分が子供の頃に亡くなつた。

昔は、平賀コタンと同じく、おおかた狩猟でくらしていたのだが、コポンチカル（門別編3—3—4参照）するようになってから丸木舟で川を渡つて農作をしていたが、自然と仮の家が本当の家になって移住するようになった。昔のハトナイのコタンはなくなつてしまつた。サルパやシウンコツに住むようになった。後にシウンコツから鍋沢の人達と一緒に新平賀に移つた。

アイヌは老人でも子供でもメノコ（女）でも丸木舟を扱えた。それでだんだん崖の上の旧村から新平賀にうつるようになった。後になって父とそこを通りかかつた時に、ここが古い村だと教えてくれた。直径60cm くらいのスモモの大木が3本もあつた。シカの骨かクマの骨か知らないが畑の中に白い骨が見えた。山形長太郎（後の豆腐屋）の父達の家が火事で焼けた跡となつて残っていた。

鍋沢の姓は、シウンコツ（suunkot から siunkot）（大津波の後で鍋を見つけた沢）に由来する。シウンコツでは農家をしていた。サルパ sarpa に出作していた。シウンコツからサルパ（去場）に移つた人もいる。その人達は鍋沢姓だ。平目は、サルパ sarpa とニナ nina にいた人の姓だ。明治31年の大水害の前、孫じいさんと孫ばあさんの代に新平賀に移つた。宅地5反だとか3反だとか配分してもらつて新平賀に移転した。

[門別 鍋沢強巳氏]